

文学国語	単位数	4単位	学科・学年・学級	
------	-----	-----	----------	--

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 使用教科書など

使用教科書	東京書籍「文学国語」(文国 701)
副教材など	「文学国語 学習課題ノート」(準拠ノート) / 「新総合図説国語」 / 「ジャンプアップ高校漢字問題集 改訂版」 / 「常用漢字の基本演習 改訂版」 / 「常用漢字の標準演習 改訂版」 / その他、D マークコンテンツ(教科書)、指導用 DVD-ROM 収録の補助資料など

3 評価の3観点と学習指導要領との対応

平成 30 年告示の学習指導要領では、評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つとなった。学習指導要領との対応は以下のとおりである。

- ・「知識・技能」：学習指導要領の〔知識及び技能〕について指導したことを評価する。
- ・「思考・判断・表現」：学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕について指導したことを評価する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」：学習指導要領に直接該当する項目はないが、次の2つの側面を評価することが求められている。
 - ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面。
 - ②①の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

4 「年間指導計画例」の見方

本資料の各項目の概要は、以下のとおりです。

《薄いグレーの見出し》

- ・学期と各編の単元番号と名称，配当月を示した。

《領域・教材名・ページ数・配当時数》

- ・領域（書く／読む），教材名，ページ数，配当時数を示した。

《学習指導要領との対応》

- ・学習指導要領の指導事項や言語活動例との対応を示した。

記号の意味

[知技] …… 「知識及び技能」の指導事項

[思判表] …… 「思考力，判断力，表現力等」の指導事項

Ⓔ …… 「思考力，判断力，表現力等」の言語活動例

《学習目標》

- ・附録「この教科書で学ぶこと」に掲載の学習目標を示した。

《学習活動例》

- ・配当時数の中で考えられる学習活動の例を示した。

記号の説明

* …… 指導上の留意点や別案

D …… D マークコンテンツの活用

《評価規準例》

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による評価規準例を示した。
- ・「知識・技能」の評価規準例は，各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔知識及び技能〕の指導事項の文言をそのまま用いて，文末を「～している。」とした。
- ・「思考・判断・表現」の評価規準例は，各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔思考力，判断力，表現力等〕の指導事項の文言をそのまま用いて，冒頭を「（領域名）において，」として領域を明示し，更に文末を「～している。」とした。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準例は，扱っている全ての指導事項について設定した。

・「主体的に学習に取り組む態度」は、次の4つの内容を全て含め、各教材の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫しながら設定している。また、文末は「～しようとしている。」とした。

- ①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- ④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

記号の意味

[知技] …… 「知識・技能」の評価規準例

[思判表] … 「思考・判断・表現」の評価規準例

[主] …… 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準例

◆年間指導計画例

領域・教材名 ページ数・配当時数	学習指導要領と の対応	学習目標	学習活動例 (*は指導上の留意点など)	評価規準例
■ 1 学期				
I 部 1 随筆 (4月)				
読む 光の窓 P 8 2 時間	[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読む こと(1)ア, カ	・筆者のものの見方 や感じ方を読み取 り, 言葉と感覚との 関係について考え る。	<第 1 時> 1 「光の窓」というタイトルの意味を考えながら, 本文 を通読する。(手引き 1) 2 筆者は自分の幼年期の感覚をどのように捉えている かを読み取る。(手引き 2) 3 「絵は窓だ。」とはどのようなことか, 筆者の捉え方 を読み取る。(手引き 3) 4 大人になって同じ絵を見たとき, 「少し驚き, 少しが っかりした」理由を考える。(手引き 4) <第 2 時> 1 「おまえ, 墮落したな。」には筆者のどのような思い が込められているかを考える。(手引き 5) 2 筆者は, 自分の絵の見方が幼年期と大人になってから では, どのように変わったと捉えているか, まとめる。 3 自分の好きな絵を選び, その絵の魅力を, 自分自身の 感覚と関連づけながら, 発表する。(言語活動)	[知技] ・言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを 理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文 章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かに している。 ・文学的な文章を読むことを通して, 我が国の言語文化 の特質について理解を深めている。 ・人間, 社会, 自然などに対するものの見方, 感じ方, 考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解 を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容 や構成, 展開, 描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において, 作品の内容や解釈を踏まえ, 人間, 社会, 自然などに対するものの見方, 感じ方, 考え方を深めている。 [主] 粘り強く言葉と感覚との関係について, 筆者の捉 え方を理解し, 学習課題に沿って自分の経験を振り返 って考えをまとめ, 発表しようとしている。
読む 雨月物語 P 15 2 時間	[知技] (1)ア, イ (2)ア [思判表] 読む こと(1)ア, カ	・筆者の考え方の変 化を捉え, 『雨月物 語』が筆者にどのよ うな影響を与えた	<第 1 時> 1 「物語」に対する筆者の考えに注目して, 本文を通読 する。(手引き 1) 2 筆者が「子供向けに書かれた本」をどのように感じて	[知技] ・言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを 理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文

		かを考える。	<p>いたかを読み取る。(手引き2-1)</p> <p>3『雨月物語』や『怪談』がどのような作品か確認し、筆者が『雨月物語』や『怪談』を好んで読んでいた理由を考える。(手引き2-2)</p> <p><第2時></p> <p>1筆者が『雨月物語』の「浅茅が宿」からどのようなことを考え、何を感じたかを読み取る。(手引き3)</p> <p>2筆者がどのようなことを「これ以上ない希望だった。」と述べているか、読み取る。(手引き4)</p> <p>3「物語」に対する筆者の考え方の変化を整理する。</p> <p>4「物語」に対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。</p> <p>・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p> <p>[主] 進んで『雨月物語』が筆者に与えた影響を読み取り、今までの学習を生かして「物語」についての自分の考えをまとめようとしている。</p>
--	--	--------	--	---

I部 2 小説1 (4~7月)

<p>読む 山月記</p> <p>P20</p> <p>【文学への扉】 変身ということ</p> <p>P42 4時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア, イ</p> <p>[知技] (1)エ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)オ</p>	<p>・登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。</p>	<p><第1時></p> <p>1作者について予備知識を持ったうえで、現代社会の、あるいは自分が置かれた状況と同じ点、違う点について考える。</p> <p>2あらかじめ調べてきた語句の意味を確認し、漢文調を生かした語句の意味を明らかにする。(手引き1)</p> <p>3「語り」の変化を手がかりに、本文をいくつかの場面に分け、それぞれの要点をまとめる。(手引き2)</p> <p><第2時></p> <p>1第一段に描かれた李徴の性格について発表する。(手引き3)</p> <p>2李徴がどのような経緯をたどって虎になったかをまとめる。(手引き4)</p> <p>3第三段を中心に、虎となった李徴の心情を考える。(手引き4)</p> <p><第3時></p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</p> <p>・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。</p> <p>・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</p> <p>・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。</p>
---	---	---	--	--

			<p>1 第四段・第五段を中心に、李徴の心情、生き方を探る。(手引き5・6)</p> <p>2 李徴は自らの詩をどのような理由から袁慆に伝え、袁慆はその作品をどのように感じたか、考える。(手引き5)</p> <p>3 第六段・第七段を中心に、李徴と袁慆の別れについて考える。</p> <p><第4時></p> <p>1 これまでの学習を踏まえて、李徴が虎になった理由についてどう分析しているかを押さえ、主題に迫る。(手引き4・6)</p> <p>2 怪異な虚構が用いられた理由、効果について発表する。(手引き7)</p> <p>3 【文学への扉】「変身ということ」を読み、変身譚について理解する。</p> <p>4 李徴の生き方について話し合う。(言語活動)</p>	<p>・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。</p> <p>・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。</p> <p>[主] 粘り強く登場人物の心情を把握し、学習課題に沿って主人公の内面と苦悩を理解して、その生き方について考え、話し合おうとしている。</p>
<p>読む窓</p> <p>P34 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア [思判表] 読むこと(1)ア, エ</p>	<p>・場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。</p>	<p><第1時></p> <p>1 「短編小説」の語る内容と「僕」との関係に注目しながら、本文を通読する。(手引き1)</p> <p>2 「短編小説」が言った「小説ってのは小さな『窓』なんですよ。」とは、どのようなことを表しているか読み取る。(手引き2)</p> <p>3 それを聞いた「僕」は何を考えたかを読み取る。(手引き3)</p> <p>4 「ね、人は誰でも、ページ数を知りようのない、一編の小説なんですよ。」とは、どのようなことを表しているか読み取る。(手引き4)</p> <p><第2時></p> <p>1 窓から外の風景を見ている「僕」の心情を読み取る。(手引き5)</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</p> <p>・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。</p> <p>[主] 粘り強く「短編小説」が象徴するもの理解し、学習課題に沿って自分自身の記憶の風景を思い出して</p>

			2 自分自身の記憶の風景を思い出し、文章を書く。(言語活動)	文章を書こうとしている。
書く 【言語活動】 小説を創作する P40 8時間	[知技] (1)ア, ウ, エ [思判表] 書くこと(1)ア ⑧ 書くこと(2)ア	・何をどのように書くかということに注意し、表現したいことを明確にして、小説を書く。	<p><第1時></p> <p>1 本文を読み、小説を創作する際の手順を理解する。 2 自分が表現したいことを考える。 3 大まかなストーリー、登場人物、時間と場所、人称と視点をどうするかを考え、メモを作る。</p> <p><第2～6時></p> <p>1 メモをもとに「何を書くか」「どのように書くか」を意識しながら創作する。 2 創作したものを推敲し、更に練り上げる。</p> <p><第7～8時></p> <p>1 グループに分かれ、友達の小説を読み、よかったところや疑問に思ったところなどを伝え合い、互いの小説を批評する。 2 友達の批評を参考に、手直しする。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 <p>[主] 積極的に「何をどのように書くか」を明確にして、今までの学習を生かして工夫しながら小説を書き、推敲したり他者の批評から手直ししたりして、小説を創作しようとしている。</p>
I 部 3 評論1 (7月)				
読む 言葉を生きる P44 2時間	[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読むこと(1)ア, カ	・筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深める。	<p><第1時></p> <p>1 筆者の言葉の捉え方に注意しながら、本文を通読する。(手引き1) 2 「ある言葉と、本当の意味で交わる」というのはどのようなことか、読み取る。(手引き2) 3 「悲しみ」に向き合うことについて、筆者はどのように捉えているかを読み取る。(手引き3) 4 悲しむものへの「励まし」を筆者はどのように考えているかを読み取る。(手引き4)</p> <p><第2時></p> <p>1 「悲しみの経験」についての筆者の捉え方を理解し、グループで話し合う。(手引き5)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p>

			2 「生きること」と「言葉」の関係について、自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 <p>[主] 粘り強く筆者の考えをその表現から読み取り、学習課題に沿って「生きること」と「言葉」の関係について理解を深めようとしている。</p>
<p>読む 詩と感情生活</p> <p>P50 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア [思判表] 読むこと(1)ア, カ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・論の展開を踏まえて筆者の主張を捉え、詩の特質について考えを深める。 	<p><第1時></p> <p>1 詩についての筆者の考えに注意しながら、本文を通読する。(手引き1)</p> <p>2 「詩は何の役に立つのか」について、筆者の考えを読み取る。(手引き2-1)</p> <p>3 「優れた詩作品が、なぜ私たちの心を魅惑するのか」について、筆者の考えを読み取る。(手引き2-2)</p> <p>4 「詩の言葉」と「物事を指示する言葉」について、それぞれどのような性質のものか整理する。(手引き3)</p> <p><第2時></p> <p>1 詩における論理的矛盾について、筆者はどのように考えているか読み取る。(手引き4)</p> <p>2 筆者は、「詩(主として抒情詩)」はどのようなものだと考えているかまとめる。(手引き5)</p> <p>3 詩の特質について、自分の考えをまとめる。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 <p>[主] 進んで詩についての筆者の主張を読み取り、学習課題に沿って詩の特質について考えを深めようとしている。</p>
<p>読む 【言語活動】 書評を書く</p> <p>P56 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, ウ, エ [思判表] 読むこと(1)ア, ウ ㊦ 読むこと(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ本の内容を解釈して、作品の紹介と内容の評価を区別し、書評を書く。 	<p><第1時></p> <p>1 本文を読み、書評を書く際の進め方と留意点を理解する。</p> <p>2 自分が気になった本を1冊選び、内容を解釈して、書評を書く。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。

	ア		<p><第2時></p> <p>1 グループに分かれ、書評を読み合い、感想を伝え合う。 2 気になった書評と、取り上げられている作品とを読み比べ、その作品の特徴を理解する。</p>	<p>・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。</p> <p>・「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。</p> <p>[主] 積極的に書評についての理解を深め、今までの学習を生かして内容を解釈し、書評を書こうとしている。</p>
--	---	--	---	--

■ 2学期

I部 4 小説2 (9月)

<p>読む 山椒魚 P58</p> <p>【文学への扉】 小説は誰のものか P92 3時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読むこと(1)ア, エ</p> <p>[知技] (1)エ [思判表] 読むこと(1)オ</p>	<p>・登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。</p>	<p><第1時></p> <p>1 井伏鱒二や「山椒魚」について、教科書の作者紹介などを参考にして、知っていることを発表する。 2 山椒魚の心情や行動に注意しながら本文を通読し、あらすじをつかむ。(手引き1) 3 第一段を読んで、語句や表現に留意しながら、岩屋に閉じ込められた山椒魚の置かれた状況やその心情を読み取る。(手引き2) 4 第二段を読んで、岩屋の内外の動植物の様子についてまとめ、それぞれに対する山椒魚の気持ちを整理する。(手引き3-1・3-2・4-1)</p> <p><第2時></p> <p>1 第三段を読んで、小えびの侵入に伴う山椒魚の心境の変化と、その後の山椒魚の行動を読み取る。(手引き4-2) 2 第四段を読んで、岩屋の外に出られない山椒魚が、外に出られないことを嘆き、岩屋の外の世界で遊ぶ小動物の様子を、感動の瞳で眺める様子を読み取る。</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</p> <p>・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。</p> <p>・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</p> <p>・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。</p>
--	---	---	---	--

			<p>3 第五段を読んで、岩屋の窓から紛れ込んだ蛙を外に出ることができないようにした山椒魚と、閉じ込められた蛙との激しい口論の様子を読み取る。</p> <p>4 第六段を読んで、一年が過ぎ、鉱物から生物によみがえった山椒魚と蛙が、口論を続ける様子を読み取る。</p> <p>5 第七段を読んで、更に一年が経過した山椒魚と蛙の様子に見られる変化を読み取る。</p> <p>6 山椒魚と蛙が歩み寄りを見せ、和解に向かう経過について整理する。(手引き5)</p> <p><第3時></p> <p>1 この作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方に触れながら、六百字程度の文章にまとめる。(言語活動)</p> <p>2 グループで発表し、感想を伝え合う。</p> <p>3 【文学への扉】「小説は誰のものか」を読み、作者自身による改変について理解する。</p> <p>4 作者が削除した部分がある場合とない場合を比較して、その部分が持つ意味を考える。</p> <p>5 作者が削除した部分がある場合とない場合では、どちらが今の自分にとって納得がいく作品になるか、理由とともにまとめる。</p> <p>6 「小説は誰のものか」について、自分の考えをまとめる。(【文学への扉】小説は誰のものか)</p>	<p>・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。</p> <p>[主] 粘り強く登場人物の心情を把握し、学習課題に沿って作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方に触れながら文章にまとめようとしている。</p>
<p>読む 沖縄の手記から P71 4時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア [思判表] 読む こと(1)ア, カ</p>	<p>・戦争の中に生きる登場人物の生き方や考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。</p>	<p><第1時></p> <p>1 太平洋戦争, 殊に沖縄戦に関する知識を出し合い, 必要に応じて更に調べ, 確認する。</p> <p>2 指名により全体を通読し, あらすじを整理するとともに, 語句の意味, 漢字の読みを確認する。(手引き1)</p> <p>3 初発の感想を話し合い, 議論を深める。</p> <p>4 第一の梗概(冒頭)以下の二つの段と, 第二の梗概以</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</p> <p>・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文学的な文章を読むことを通して, 我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</p>

			<p>下の段とを合わせて、全体が三つの段からなることを確認し、時系列に即した事件の展開を理解する。</p> <p><第2時></p> <p>1 第一段に描かれている状況を、第一の梗概の内容も踏まえて整理する。</p> <p>2 「私」と「娘」が置かれた状況や立場を、地の文の説明やそれぞれの発言に注意して読み取り、まとめる。 (手引き2・4-1)</p> <p>3 第二段に描かれている状況を整理する。</p> <p><第3時></p> <p>1 「娘」(当間キヨ)が負傷者の世話をし、結局壕に残ることを決意するに至った心情を、第一段も振り返りつつ、読み取りまとめる。また、それに対する「私」の心情を読み取り、まとめる。(手引き1・3-2・3-3)</p> <p>2 第三段に描かれている状況を、第二段の梗概の内容も踏まえて整理する。</p> <p>3 「私」の当間キヨに対する心情と、最後の場面におけるその行動の意味を読み取り、まとめる。(手引き5-2・6)</p> <p>4 「私」の当間キヨに対する心情の変化を、事件の展開に即して整理し、読みを深める。(手引き4-2・5・6)</p> <p><第4時></p> <p>1 比喩表現や、人物の描写に関わる象徴的な表現などを指摘し、その効果について考える。</p> <p>2 感想を交換し、主題について全体で話し合い、更に必要に応じて、発展的な読書、調査などによって、考えを深める。</p>	<p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 <p>[主] 粘り強く時代背景や登場人物の生き方・考え方を把握し、学習課題に沿って、人間の生と死について考え、まとめようとしている。</p>
--	--	--	--	--

<p>読む 鉄</p> <p>P94 1時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読む こと(1)ア, イ</p>	<p>・ 詩に表現された事柄を捉え、日常の行動に込められた「わたし」の思いを読み取る。</p>	<p><第1時></p> <p>1 作者と作品について理解する。</p> <p>2 第四連のみ「。」を使っていることなどに着目しながらこの詩の表現や構成の特徴を見つけ、まとめる。(手引き1)</p> <p>3 「鉄」が象徴しているものを詩から読み取る。(手引き2)</p> <p>4 「わたし」は、「変わること」をどのように捉えているか、表現されている内容から考えをまとめる。(手引き3)</p> <p>5 「わたし」の心情に着目しながら、この詩に共感できるところを理由とともにまとめ、グループで話し合う。(手引き4)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 <p>[主] 進んで作品に表現された事柄を把握し、学習課題に沿って作品に込められた作者の思いを読み取るようとしている。</p>
<p>読む 竹</p> <p>P96 1時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読む こと(1)ア, イ</p>	<p>・ 特徴的なリズムや表現に気づき、それがどのような効果をもたらしているかを読み取る。</p>	<p><第1時></p> <p>1 作者と作品について理解する。</p> <p>2 音読を繰り返し、表現上の特色として気づいたことや表現の効果をまとめ、発表する。(手引き1)</p> <p>3 第一連と第二連の語句や内容を比較しながら、それぞれに描かれている世界をつかむ。(手引き2)</p> <p>4 第一連と第二連の内容や、その奥にある作者の心情から、「竹」が何を暗喩しているかを考え、話し合う。(手引き3)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。

				<p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 <p>【主】 進んで作品の表現の特徴とその効果を把握し、学習課題に沿って作品に表された作者の心情を読み取ろうとしている。</p>
<p>読む 永訣の朝</p> <p>P98 2時間</p>	<p>【知技】(1)ア, イ (2)ア, イ 【思判表】 読むこと(1)ア, イ</p>	<p>・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。</p>	<p><第1時></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 作者について、事前知っていることを挙げ、経歴や作者の文学傾向を知る。 2 表現やリズムに留意して、情景や心情を味わいながら音読する。(手引き1) 3 作者の心境の変化や、時間の移り変わりを考えながら、全体を四つに分ける。(手引き2) 4 作者独特の表現がされた部分を抜き出し、表現の背景にあるものについて考える。(手引き3・4・5) <p><第2時></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妹の置かれた状態を表す比喩などから、作者がどんな変化を体験しているのかを考え、作者の目標としたものをまとめる。(手引き6) 2 必要に応じて、妹の死を扱った他の作品と読み比べたり、妹の死を境として、その体験以前と以後の作品を読み比べたりする。 <p>* Dこの教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 <p>【主】 粘り強く作品に表現された内容を把握し、学習課題に沿って作品の主題と、それを支える優れた表現を見つけようとしている。</p>
<p>読む</p>	<p>【知技】(1)ア, イ</p>	<p>・短歌独自の特徴と</p>	<p><第1時></p>	<p>【知技】</p>

<p>硝子の駒——短歌抄 P104 2時間</p>	<p>(2)ア, イ 【思判表】読む こと(1)ア, ウ</p>	<p>表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。</p>	<p>1 一首ずつ、それぞれの歌の表現に着目し、リズムを味わいながら音読する。(手引き1) 2 それぞれの歌のうち、句切れがあるものについて確認し、句切れに注意しながら再度音読する。(手引き2) 3 それぞれの歌の作者と時代背景を確認する。 4 それぞれの歌について、どのような情景や心情を読み取ったか各自でまとめ、グループで話し合う。(手引き3) <第2時> 1 最も印象に残った歌を選び、その歌の特徴を意識しながら、どのような点にひかれたか四百字程度の文章にまとめる。(手引き4) 2 グループで発表する。</p>	<p>・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。 【主】 進んで短歌独自の特徴と表現効果を理解し、学習課題に沿って印象に残った歌について、ひかれた理由を考え、まとめようとしている。</p>
<p>読む モードの変遷 P108 2時間</p>	<p>【知技】(1)ア, イ (2)ア 【思判表】読む こと(1)ア, オ</p>	<p>・具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりを考える。</p>	<p><第1時> 1 本文中に取り上げられている短歌とそれらが詠まれた「時代性」の関係に注意しながら、本文を通読する。(手引き1) 2 本文中に取り上げられている短歌とそれらが詠まれた「時代」や社会背景を整理する。 3 本文中に取り上げられている短歌の句切れを確認し、更に塚本邦雄と俵万智の歌について、句またがりの技法が使われている箇所を指摘し、破調がもたらす効果を考える。(手引き3) 4 与謝野晶子と斎藤茂吉の短歌について、筆者が『私』の獲得についてどのように捉えているか読み取る。(手引き2)</p>	<p>【知技】 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背</p>

			<p>5 筆者が、塚本邦雄が推し進めた「言葉のモノ化」についてどのように捉えているか読み取る。(手引き 4)</p> <p><第 2 時></p> <p>1 筆者が、定型への影響力という点において、「近代および戦後の二大モード」が『私』の獲得と「言葉のモノ化」だと捉えていることを読み取る。(手引き 5-1)</p> <p>2 『私』の獲得と「言葉のモノ化」に加え、筆者が近年の短歌のモードの傾向について、どのように捉えているか読み取る。(手引き 5-2)</p> <p>3 筆者が、近代以降に関して、短歌のモードはどのような変化をしてきたと捉えているか読み取る。(手引き 6)</p> <p>4 本文中の短歌を一つ選び、その短歌が詠まれた時代のモードを踏まえて、「時代性」がその短歌にどのように反映されているか考えをまとめ、グループで話し合う。(言語活動)</p>	<p>景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。</p> <p>[主] 粘り強く本文中の短歌の表現の特質を理解し、今までの学習を生かして選んだ短歌の「時代性」がどのように反映されているか自分の考えをまとめようとしている。</p>
<p>書く</p> <p>【言語活動】</p> <p>共同で詩を創作する</p> <p>P114</p> <p>6 時間</p>	<p>[知技] (1)ア, ウ, エ</p> <p>[思判表] 書くこと(1)エ</p> <p>④ 書くこと(2)エ</p>	<p>・共同で詩を創作して意見を交換し、詩に対する自らの価値観を捉え直す。</p>	<p><第 1・2 時></p> <p>1 本文を読み、活動の進め方を確認する。</p> <p>2 四人程度のグループを作り、〈活動の進め方〉で示されている工程に沿って詩の創作に取り組む。</p> <p><第 3 時></p> <p>1 新たにできた詩を、グループ内で発表する。</p> <p>2 他の組の詩について、よいところや工夫されているところを伝え合う。</p> <p>3 作り手として楽しかった点や苦勞した点について感想を伝え合う。</p> <p>4 学級全体で、できた詩を発表して感想を伝え合う。</p> <p><第 4 時></p> <p>1 二回目の活動に移る。一回目とは違うグループになる。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。

			<p>り、最初に自分が書いた詩の短冊状に切った紙を持ち、全て袋に入れてよく交ぜ、その袋から指定された枚数（一回目より多い枚数）の短冊を取り出す。</p> <p>2 グループ内で二人一組に分かれ、取り出した短冊をどのような組み合わせがよいか、それぞれ話し合いながら並べ替え、新たな詩を創作する。</p> <p>3 創作した新たな詩に、二人でタイトルをつける。</p> <p><第5時></p> <p>1 新たにできた詩を、グループ内で発表する。</p> <p>2 他のペアの詩について、よいところや工夫されているところを伝え合う。</p> <p>3 作り手として楽しかった点や苦勞した点について感想を伝え合う。</p> <p>4 学級全体で、できた詩を発表して感想を伝え合う。</p> <p><第6時></p> <p>1 二回の活動を通して、自分が詩のどのような要素に価値を感じているかを考え、まとめる。</p> <p>2 グループで意見交換をし、学級全体で共有する。</p>	<p>[主] 積極的に共同で詩を創作する活動に取り組み、今までの学習を生かして鑑賞や意見交換を通して、詩に対する自らの価値観を捉え直そうとしている。</p>
I 部 6 小説3 (12月)				
<p>読む ころ</p> <p>P 116</p> <p>【文学への扉】 襖という建具</p> <p>P 148 7時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ</p> <p>[思判表] 読む こと(1)ア, エ</p> <p>[知技] (1)エ</p> <p>[思判表] 読む こと(1)イ</p>	<p>・人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。</p>	<p><第1時></p> <p>1 作者紹介 (P146)などを参考に、これまでに読んだことのある夏目漱石の作品を挙げ、本教材を学習するのに必要な範囲で、作者・作品について予備知識を持つ。</p> <p>2 「ころ」についての概説 (P116)と、本教材に至るあらすじ (P117)を読み、「私」とお嬢さんとの関係、「私」とKとの関係を理解する。</p> <p>3 本文を通読し、印象に残った登場人物の言動(「私」から見たKの性格、「私」の性格など)を挙げる。(手引き1)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、

			<p>4 本文を話の展開にしたがっていくつかの意味段落(五つ)に分け、それぞれの内容を大まかに把握することを目標に、簡潔に要約する(小見出しをつけることでもよい)。(手引き2)</p> <p><第2時></p> <p>1 第I段(P118・上1～P127・上12)を、Kの性格に注意して読み、「私」がKの自白をどのように受け止めたかを捉え、Kの自白から受けた「私」の衝撃と心理的動揺とを整理する。(手引き3-1)</p> <p>2 「私」とKの性格の違いを明らかにしたうえで、二人の关系到注目し、「私」がKを恐れる理由を確認する。</p> <p>3 Kを恐れていた「私」が、Kに「肉薄」するに至る経緯を整理する。</p> <p>4 【文学への扉】「襖という建具」を読み、P119の間取り図を確認する。(【文学への扉】襖という建具)</p> <p>5 襖が出てくる場面を探し、本文中で重要なはたらきを持つ襖の役割に注目する。</p> <p><第3時></p> <p>1 第II段前半(P127・上14～P129・下11)を、学校の図書館から上野公園への展開に注意して読み、Kと「私」との心理的なやりとりを読み取り、「私」に対するKの態度の変化を理解する。</p> <p>2 「私」のKに対する「策略」(P129・下2)とはどのような意図と意味を持ったものかを把握する。(手引き3-2)</p> <p>3 第II段の後半(P129・下12～P133・上4)を、クライマックスへの展開に注意して読み、Kの「精進」(P130・上3)の内容を整理し、彼がどのような精神生活をしてきたかを捉え、Kの精神生活や言動についての「私」の考察を整理する。</p>	<p>考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 <p>[主] 粘り強く登場人物の関係性と心情を描写から把握し、今までの学習を生かして人の心のありようについて考えを深め、自分の考えを話し合おうとしている。</p>
--	--	--	---	--

			<p>4 Kは「覚悟」(P132・上13)という言葉をどのような意味で使ったと思われるかを推測し、話し合う。(手引き4)</p> <p>5 語り手である「私」には見えることと見えないことがあることを踏まえ、Kの心理について読者として推理し、物語の構造を捉える。</p> <p><第4時></p> <p>1 第Ⅲ段(P133・上6～P138・下3)を、Kの行動を巡る「私」の心理の動きに注意して読み、Kの過去の生き方や性格についての「私」の考察を整理し、その考察が、なぜ「私」の「比較的安静な夜」(P133・下4)につながったのかを考える。</p> <p>2 「黒い影法師のような」(P134・上5)姿のKは、「私」に何を伝えたかったのか、また、それを「私」はどう受け止めたのかを、これまで学習した範囲の中でまとめ、話し合う。</p> <p>3 Kの「覚悟」を「私」はどう解釈したのか、前項2に関連させて考え、「私」が「最後の決断」(P135・下1)に至る経緯について考える。(手引き3-3)</p> <p>4 「私」の求婚を承諾した時の「はきはきしたところのある」(P137・上16)奥さんの人物像について、考えたことをまとめる。</p> <p><第5時></p> <p>1 第Ⅳ段(P138・下5～P142・下14)を、「私」の結婚の申し込み後の行動・心理に注意して読んで、「良心」(P139・下7,9)が復活しながら、なぜ「私」がKに事情を話せないのか考え、また、夕飯時の「私」の気持ちを読み取る。そのうえで、「良心」が貫徹できなかったのは何が原因なのかを考える。</p> <p>2 「私」とお嬢さんの結婚について、奥さんから聞いたKの様子と、「私」の反応をまとめる。</p>	
--	--	--	--	--

			<p><第6時></p> <p>1 第V段（P142・下16～P145・下11）を、Kの室内の様子を想像しながら読み、Kの以前と変わらない様子について「私」がどう考えたかを読み取り、Kが「立派」（P143・上3）に見えたのはなぜかを考える。（手引き3-4）</p> <p>2 「もっと早く死ぬべき」（P144・下10）だったというKの「手紙」の言葉の意味について各自の意見を出し合い、話し合う（ただし、本文は「私」の視点から捉えられたものなので、断定は避ける）。（手引き5）</p> <p>3 Kの自殺を知った時の「私」の行動・心理を整理し、なぜ「私」がKの自殺に「運命の恐ろしさ」（P145・上9）を感じたのかを考える。（手引き3-5・6）</p> <p><第7時></p> <p>1 場所・時などの変化に注意して事の経緯をまとめ、「私」とKの性格や生き方の違いについて考えて、全体を振り返る。</p> <p>2 例えば、「二人はそれぎり話を…感じだしたくらいです。」（P132・下2～下11）の部分の描写から読み取れることについて話し合う。（言語活動）</p> <p>3 この小説の主題（例えば、エゴイズムなど）について、考えたことを話し合う。</p> <p>* <input type="checkbox"/> D この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	
<p>■ 3 学期</p>				
<p>I 部 7 評論2（1～2月）</p>				

<p>読む 文学のふるさと</p> <p>P 150 2 時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア [思判表] 読む こと(1)ア, カ</p>	<p>・具体例と筆者の主張との関係に注意して評論を読み, 文学のよりどころについて理解を深める。</p>	<p><第 1 時></p> <p>1 具体例の三作品とそこから導かれている筆者の考えに注意しながら, 本文を通読する。(手引き 1)</p> <p>2 「アモラル」という視点から, 筆者が「赤頭巾」「狂言」『伊勢物語』の作品のどこに着目しているか整理する。(手引き 2)</p> <p>3 「赤頭巾」について, 筆者が「切ない悲しさ, 美しさ」を感じる理由を読み取る。(手引き 3-1)</p> <p>4 「狂言」のモラルについて, 筆者の捉え方を読み取る。(手引き 3-2)</p> <p>5 『伊勢物語』について, 筆者が美しさやむごたらしさをどう捉えているか読み取る。(手引き 3-3)</p> <p><第 2 時></p> <p>1 筆者が, アモラルな物語をそれほど高く評価しないという理由を読み取る。(手引き 3-4)</p> <p>2 文学のモラルや社会性に注目しながら, 「文学のふるさと」を筆者がどのように考えているかまとめる。(手引き 4)</p> <p>* Dこの教材には, 関連するデジタルコンテンツが用意されているので, 適宜利用するとよい。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むことを通して, 我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 展開, 描写の仕方などを的確に捉えている。 「読むこと」において, 作品の内容や解釈を踏まえ, 人間, 社会, 自然などに対するものの見方, 感じ方, 考え方を深めている。 <p>[主] 粘り強く具体例と筆者の主張との関係に注意して本文を読み, 学習課題に沿って文学のふるさとについて, 筆者の考えを理解し, まとめようとしている。</p>
<p>読む 文学の未来</p> <p>P 161 2 時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読む こと(1)ア, カ</p>	<p>・本文中における引用の役割を押さえて筆者の主張を理解し, 文学の意義について理解を深める。</p>	<p><第 1 時></p> <p>1 五つの意味段落で述べられている筆者の考えを, 事柄の関係性に注意しながら押さえ, 本文を通読する。(手引き 1)</p> <p>2 現在の読者が文学作品を読むことの固有の意義について筆者の考えを読み取る。</p> <p>3 文学作品とテキスト, 読者の関係についての筆者の考えを読み取る。(手引き 2・3)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むことを通して, 我が国の言語文化の特質について理解を深めている。

			<p><第2時></p> <p>1 文学作品と読者の豊かな関係についての筆者の考えを読み取る。(手引き4)</p> <p>2 文学作品に接する中で読者が発見するものについての筆者の考えを読み取る。(手引き5)</p> <p>3 筆者の考える、文学作品を読むことの意義についてまとめる。(手引き6)</p>	<p>・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。</p> <p>・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p> <p>[主] 粘り強く文学作品とテキスト、読者の関係について筆者の考えを読み取り、学習課題に沿って文学作品を読む意義についてまとめようとしている。</p>
<p>読む</p> <p>【言語活動】 評論や解説を参考に論述する</p> <p>P169</p> <p>3時間</p>	<p>[知技] (1)ア, ウ, エ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)オ</p> <p>④ 読むこと(2)イ</p>	<p>・評論や解説を参考にして作品への解釈を深め、作品の内容について論述する。</p>	<p><第1時></p> <p>1 本文を読み、論述する活動の手順を理解する。</p> <p>2 教科書に掲載されている作品から一つ選び、「問い」を立てる。</p> <p>3 二人一組になり、互いの立てた「問い」と、その「問い」に対して考えられることを伝え合い、「問い」を見直す。</p> <p>4 「問い」を見直し設定したら、作品の本文を根拠にして、問いに対する自分なりの「仮説」を立てる。</p> <p>5 インターネットや図書館を活用して、「仮説」の検証のヒントになる評論や解説などの文献を探す。</p> <p><第2時></p> <p>1 文献を入手し、それらを読み込み、自分の仮説を検証する。仮説の検証に十分でなければ、更に文献を探す。</p> <p>2 論述の構想を立て、下書きをする。</p> <p>3 構想や下書きの段階でグループで意見交換をして、気づいたことがあれば修正をする。</p> <p><第3時></p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</p> <p>・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。</p> <p>・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。</p> <p>[思判表] 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。</p> <p>[主] 進んで自分が立てた仮説について検証し、評論や解説を参考にして作品への解釈を深め、学習課題に沿って論述しようとしている。</p>

			<p>1 推敲しながら論述を完成させる。</p> <p>2 グループになり、論述を冊子などにまとめ、互いの論述を読み合い、感想や意見を伝え合う。</p> <p>3 活動の感想をまとめ、新たな「問い」が生まれた場合は、各自で調べる活動につなげる。</p>	
I 部 8 小説4 (2～3月)				
<p>読む 鞆</p> <p>P172 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読む こと(1)ア, エ</p>	<p>・寓意に注意しながら小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。</p>	<p><第1時></p> <p>1 話の展開と、誰のせりふかに注意しながら、本文を通読する。(手引き1)</p> <p>2 教科書の作者紹介などを参考に、作者について確認する。</p> <p>3 この小説の舞台設定を確認し、青年の行動に対する「私」の印象を読み取る。(手引き2・3)</p> <p>4 「私」と青年の会話から、青年が持つ鞆に対する「私」の気持ちの変化を読み取る。(手引き2)</p> <p>5 鞆を持って歩く「私」の心情について読み取る。(手引き4)</p> <p><第2時></p> <p>1 鞆の象徴するものを手がかりに、作品の主題について考える。(手引き5)</p> <p>2 この小説を紹介するという設定で、ポップや本の帯、図書館便りなどに載せる文章を書く。(言語活動)</p> <p>3 グループで内容紹介文を読み合い、意見交換をする。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 <p>[主] 粘り強く寓意が表しているものを読み取り、学習課題に沿って作者が描こうとした意図について考え、内容紹介文を書こうとしている。</p>
<p>読む あの朝</p> <p>P180 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア [思判表] 読む こと(1)ア, イ</p>	<p>・場面ごとの設定を押さえて、その転換に伴う登場人物の状況や心情の変化を読み取る。</p>	<p><第1時></p> <p>1 市子の場面ごとの状況と、それに伴う心情の変化に注意しながら本文を通読する。(手引き1)</p> <p>2 市子は結婚前の「朝の時間」をどのように過ごし、それをどのように感じていたか読み取る。(手引き2-</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かに

			<p>1)</p> <p>3 結婚後の市子の「いき当たりばったりのような暮らし」とはどのような暮らしのことで、それをどう感じているか読み取る。(手引き2-2)</p> <p>4 今後、ひとりで暮らすようになったとしても「ひとりの朝」は「あのととは違う」と市子が考える理由を読み取り、まとめる。(手引き3)</p> <p><第2時></p> <p>1 「かつての自分の朝」について、市子はどのようなことを夫に話そうとしているのか読み取り、まとめる。(手引き4)</p> <p>2 市子のように「なくすことで好きになったあれこれ」について、自分の経験を振り返り、考えをまとめ、話し合う。(言語活動)</p>	<p>している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 <p>【主】 市子の状況から粘り強く心情の変化を読み取り、学習課題に沿って自分の「なくすことで好きになったあれこれ」について市子の場合と比較して考え、話し合おうとしている。</p>
<p>書く</p> <p>【言語活動】 翻案作品を創作する</p> <p>P188</p> <p>7時間</p>	<p>【知技】 (1)ア, ウ, エ</p> <p>【思判表】 書くこと(1)イ</p> <p>【活】 書くこと(2)ウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成や展開を工夫して、翻案作品を創作する。 	<p><第1・2時></p> <p>1 本文を読み、翻案とは何か、また、どのように創作を進めるか理解する。</p> <p>2 翻案作品の例をいくつか紹介する。(シェークスピアの翻案作品で、時代や形式が違うものをいくつか紹介してもよい。)</p> <p>3 芥川龍之介の「羅生門」と、もとになった『今昔物語』の説話を読み比べ、構成や展開の違いと読んだときの感想の違いを整理する。</p> <p>4 翻案することで生まれた効果について考えをまとめ、話し合う。</p> <p><第3時></p> <p>1 これまでに学んだ古典作品から翻案したい作品の一つを選び、心理描写、自然描写、服装の描写など、書き手が心を配っている点に着目しながら読み込み、メモを作る。</p>	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 <p>【思判表】 「書くこと」において、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。</p> <p>【主】 進んで作品を読み込み、効果的に伝えるための構成や表現を工夫しながら、学習課題に沿って翻案作品を創作しようとしている。</p>

		<p>2 翻案する際に、読み手に効果的に伝わる構成や展開、表現を考え、構想メモを作る。</p> <p><第4～6時></p> <p>1 翻案作品を創作する。</p> <p>2 途中で、グループで読み合って、助言や意見を伝え合う。</p> <p><第7時></p> <p>1 完成した翻案作品をグループで読み合い、翻案で工夫されている点やもとの作品について理解が深まった点を伝え合う。</p> <p>2 翻案する場合と一から作品を作る場合の違いについて、考えをまとめ、意見交換をする。</p>	
--	--	---	--

領域・教材名 ページ数・配当時数	学習指導要領との対応	学習目標	学習活動例 (*は指導上の留意点など)	評価規準例
■ 1 学期				
II 部 1 随筆 1 (4月)				
読む 国語から旅立って P 190 2 時間	[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読む こと(1)ア, カ	・筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。	<第1時> 1 筆者の幼い頃から現在までの日本語との関わりに注意しながら、本文を通読する。(手引き 1) 2 筆者が、自分と日本語との関係が始まったと考える出来事を読み取る。(手引き 2-1) 3 筆者が、平仮名を覚えたときのことをどのように捉えているか読み取る。(手引き 2-2) 4 筆者が、中国語や台湾語を紙に書けなかったことをなぜ「不思議なこと」と思ったか読み取る。(手引き 3-1・3-2) <第2時>	[知技] ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表]

			<p>1 筆者が主張する「世界の見え方が変わる」経験とは、どのようなことか読み取り、まとめる。(手引き4)</p> <p>2 筆者が「国語から旅立って」というタイトルをつけた理由を考え、まとめる。</p> <p>3 筆者の主張を踏まえ、言葉と自分との関係について、自分自身を振り返りながら考えをまとめる。</p>	<p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。</p> <p>・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p> <p>[主] 粘り強く筆者の多言語体験に基づいた考えを読み取り、学習課題に沿って言葉と自分との関係について考えを深めようとしている。</p>
<p>読む 書かれた風景の中へ P199 3時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア [思判表] 読むこと(1)ア, カ, キ</p>	<p>・筆者の読書体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。</p>	<p><第1時></p> <p>1 筆者が日本語の関わった読書体験に注意しながら、本文を通読する。(手引き1)</p> <p>2 筆者が、自分にとって「日本語を読む」ことがどのように始まったと考えているか読み取る。(手引き2)</p> <p>3 筆者が、古本屋で自分を見る周りの人たちの視線をどのように捉えていたか読み取る。(手引き3)</p> <p><第2時></p> <p>1 『万葉集』について、これまで学習した柿本人麻呂の歌と特徴を振り返る。(英訳が入手できれば紹介する。) また、長歌の形式と特徴を確認する。</p> <p>2 『古寺巡礼』の作者と、文章の一部を紹介し、表現の特徴を確認する。</p> <p>3 京都から明日香まで『万葉集』と『古寺巡礼』を読みながら歩いた際、筆者が風景をどのように感じたか読み取る。(手引き4)</p> <p>4 「書かれた風景の中へ」というタイトルを踏まえて、筆者の読書体験について、感じたことをまとめ、話し合う。(手引き5)</p> <p><第3時></p> <p>1 「国語から旅立って」と「書かれた風景の中へ」を読み比べ、そこから気づいた日本語の特質について考え</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</p> <p>・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。</p> <p>・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p> <p>・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p> <p>[主] 粘り強く筆者の読書体験を読み取り、学習課題に沿って二つの随筆を比べ、日本語の特色について考え、話し合おうとしている。</p>

			をまとめ、話し合う。(言語活動)	
II部 2 小説1 (5～7月)				
読む 檸檬 【文学への扉】 記号も言語の一種	P206 P224 3時間	[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読む こと(1)ア, エ [知技] (1)エ [思判表] 読む こと(1)イ	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り, 「檸檬」の持つ意味について考える。 <第1時> 1 本文を通読して, 「私」の行動に即して全体を三つに分け, 構成をつかむ。(手引き1) 2 作者の経歴やその他の作品について概略を知る。 3 「記号も言語の一種」を読み, 表現の特徴を理解する。 (【文学への扉】記号も言語の一種) <第2時> 1 「えたいの知れない不吉な塊」によってもたらされた「私」の心理状態を捉える。(手引き2-1・2-2) 2 「私」が「以前」心をひきつけられていたものと, 「その頃」心がひきつけられたものとを順番に取り出し, そこに見られる「私」の心情を理解する。(手引き2-3・2-4) 3 檸檬を買ってからの「私」の心情を理解する。(手引き3) 4 檸檬の役割の変化を捉える。(手引き4・5・6) <第3時> 1 「えたいの知れない不吉な塊」に抑えつけられていた過去の「私」を, 語り手である現在の「私」がどのように見ているのか話し合う。 2 当時の「私」をひきつけ慰めたものと, 抑えつけ憂鬱にさせたものとは, それぞれ「私」にとってどのようなものとして描かれているか, 話し合う。(言語活動)	[知技] ・言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について, 体系的に理解し使っている。 ・文学的な文章を読むことを通して, 我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間, 社会, 自然などに対するものの見方, 感じ方, 考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 展開, 描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において, 語り手の視点や場面の設定の仕方, 表現の特色について評価することを通して, 内容を解釈している。 ・「読むこと」において, 文章の構成や展開, 表現の仕方を踏まえ, 解釈の多様性について考察している。 [主] 粘り強く「私」の言動や心理を表現に即して読み取り, 学習課題に沿って「私」の心情の描かれ方について考え, 話し合おうとしている。
読む コンビニの母	P217 2時間	[知技] (1)ア, イ (2)ア [思判表] 読む こと(1)ア, カ	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り, 現代社会における人間関係 <第1時> 1 和也の言動と心情に注意しながら, 本文を通読する。(手引き1) 2 福平さんが, 和也の考えるコンビニ店員と違ったとこ	[知技] ・言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文

		<p>について考える。</p>	<p>ろはどこか読み取る。(手引き2)</p> <p>3 福平さんと和也が最初に接したとき、福平さんがどのような態度をしていて、和也はそれについてどう感じたか読み取る。(手引き3)</p> <p>4 和也は福平さんがコンビニで働き続けることに対してどのように考えていたか読み取る。(手引き4)</p> <p><第2時></p> <p>1 和也が久々に訪れた、福平さんのコンビニでの様子から、感じたことや気づいたことを読み取る。(手引き5)</p> <p>2 筆者が「コンビニの母」というタイトルをつけた理由を考え、まとめる。</p> <p>3 年齢や立場の違うさまざまな状況にある人々を想定し、「福平さん」の接客態度をそれぞれがどのように受け止めるか考えをまとめ、グループで話し合う。(言語活動)</p>	<p>章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 <p>[主] 粘り強く登場人物の言動や心理を表現に即して読み取り、学習課題に沿ってさまざまな立場から現代社会における人間関係について考え、話し合おうとしている。</p>
<p>書く</p> <p>【言語活動】</p> <p>小説の人称を書き換える</p> <p>P 223 9 時間</p>	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ</p> <p>[思判表] 書くこと(1)ウ</p> <p>⑤ 書くこと(2)イ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文体の特徴を捉えて小説の人称を書き換え、小説の表現について理解を深める。 	<p><第1時></p> <p>1 P 223 を読み、人称による表現効果を理解する。</p> <p>2 登場人物の人称をどうするかなど、書き換える際に注意が必要な点を確認する。</p> <p>3 『檸檬』の一段落目を三人称に書き換える。</p> <p>4 人称が変わることによる印象の違いを話し合う。</p> <p><第2・3時></p> <p>1 各自で、教科書に掲載されている一人称を使っている小説から一つの場面を選び、三人称に書き換える。</p> <p><第4時></p> <p>1 グループになり、元の作品と書き換えたものを読み比べ、書き換えで工夫されている点や助言をコメントカードに書く。また、人称による印象の違いや表現効果について気づいたことを各自でメモする。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 <p>[思判表] 「書くこと」において、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。</p> <p>[主] 粘り強く小説の文体の特徴を捉え、表現を工夫しながら人称を書き換え、今までの学習を生かして小説における人称の選択と表現効果について考え、理解を深めようとしている。</p>

			<p>2 回覧して、全員にそれぞれコメントを書き、気づいた点をメモする。</p> <p>3 人称を変えることによって、内容や表現がどのように変化したか、また変化させないためにはどのようにするとよいか話し合う。</p> <p><第5・6時></p> <p>1 各自で、教科書に掲載されている三人称を使っている小説から一つの場面を選び、一人称に書き換える。内容に即して描写などを書き加えてもよいと伝える。</p> <p><第7時></p> <p>1 グループになり、元の作品と書き換えたものを読み比べ、書き換えで工夫されている点や助言をコメントカードに書く。また、人称による印象の違いや表現効果について気づいたことを各自でメモする。</p> <p>2 回覧して、全員にそれぞれコメントを書き、気づいた点をメモする。</p> <p>3 人称を変えることによって、内容や表現がどのように変化したか、また変化させないためにはどのようにするとよいか話し合う。</p> <p><第8・9時></p> <p>1 人称を変えることによって、何がどのように変わったかについて、具体例を挙げながら自分の考えを文章にまとめ、発表する。</p> <p>2 教科書に掲載されているこれまでの学習した小説について、小説の主題と人称を整理し、作者がその人称を選んだ理由を考え、話し合う。</p> <p>3 小説創作の際、人称をどのように選べばよいかについて考えをまとめ、話し合う。</p>	
--	--	--	---	--

<p>読む 夏の姿</p> <p>P 226 1 時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読む こと(1)ア, イ</p>	<p>・象徴的な表現が示している内容を理解し, 描かれた情景や心情を読み取る。</p>	<p><第1時></p> <p>1 詩の表現とリズムの特徴, およびその効果を考え, まとめる。(手引き1)</p> <p>2 「抜け殻に／開いた背を／ふたりは覗いた。」「夏よ開けて／わたしの背もざっくりと。」といった特徴ある表現の意味を考え, この詩の内容を読み取り, まとめる。(手引き2)</p> <p>3 作者が「夏」に感じているものから, 「夏の姿」という題名に込められた作者の思いを読み取り, まとめる。(手引き3)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むことを通して, 我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 人間, 社会, 自然などに対するものの見方, 感じ方, 考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 展開, 描写の仕方などを的確に捉えている。 「読むこと」において, 語り手の視点や場面の設定の仕方, 表現の特色について評価することを通して, 内容を解釈している。 <p>[主] 進んで作品における象徴的な表現が示している内容を理解し, 学習課題に沿って詩に描かれた情景や, 作者の心情を読み取ろうとしている。</p>
<p>読む 帰途</p> <p>P 228 1 時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読む こと(1)ア, イ</p>	<p>・逆説的な表現の中に描かれた, 「言葉」に対する「ぼく」の思いを読み取る。</p>	<p><第1時></p> <p>1 この詩の逆説的な表現やリズムに注意しながら音読し, 特徴をまとめる。(手引き1)</p> <p>2 作者の経歴と, この詩が発表された時代背景を確認する。</p> <p>3 作者の考える「言葉のない世界」とはどのような世界か, 「言葉」があることでできることを考えながら, 第一連を読み取る。(手引き2)</p> <p>4 「言葉のない世界」だとなぜ「無関係」でいられるのか, なぜ「ただそれを眺めて立ち去る」のか考えながら, 第二連・第三連を読み取る。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むことを通して, 我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 人間, 社会, 自然などに対するものの見方, 感じ方, 考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。

			<p>5 第四連の問いかけの表現の効果と作者が込めた心情を考える。</p> <p>6 第五連を読んで、「言葉」を覚えたことで作者がどのように他者を捉えるようになったかを考える。(手引き3)</p> <p>7 「帰途」という題名や作者の経歴や時代背景を踏まえ、作者の「言葉」に対する思いを考え、まとめる。</p>	<p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 <p>【主】 進んで描かれた表現の特徴を理解し、学習課題に沿って「言葉」に対する「ぼく」の思いを読み取ろうとしている。</p>
<p>読む 小諸なる古城のほとり P 230 1 時間</p>	<p>【知技】 (1)ア, イ (2)ア, イ 【思判表】 読むこと(1)ア, イ</p>	<p>・ 文語の響きや五七調のリズムに親しみ、詩に描かれた情景や心情を読み取る。</p>	<p><第1時></p> <p>1 文語の響きや五七調のリズムに注意しながら音読し、この詩の表現の特徴をまとめる。(手引き1)</p> <p>2 作者の経歴と、この詩が発表された時代を確認する。</p> <p>3 この詩の各連に描かれている情景を読み取り、どのような情景か思い浮かべる。(手引き2)</p> <p>4 第一連の「雲白く遊子悲しむ」とは、どのようなことを述べていて、そこには作者のどのような心情が込められているか考える。(手引き3-1)</p> <p>5 第三連の「草枕しばし慰む」とは、どのようなことを述べていて、そこには作者のどのような心情が込められているか考える。(手引き3-2)</p> <p>6 この詩において、用いられている否定表現を全て指摘し、否定表現を使うことでどのような表現効果が生まれているかについて、考えをまとめる。(手引き4)</p>	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 <p>【主】 積極的に文語の響きや五七調のリズムに親しみ、学習課題に沿って詩に描かれた情景や作者の心情を読み取ろうとしている。</p>
<p>読む</p>	<p>【知技】 (1)ア, イ</p>	<p>・ 俳句独自の特徴と</p>	<p><第1時></p>	<p>【知技】</p>

<p>金剛の露一俳句抄 P232 2時間</p>	<p>(2)ア, イ 【思判表】読む こと(1)ア, ウ</p>	<p>表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。</p>	<p>1 句切れを意識して句のリズムを味わいながら、一句ずつ音読する。(手引き1) 2 それぞれの句について、季語があるものは、季語と季節を確認する。(手引き2) 3 それぞれの句の作者の経歴と、句が発表された時代を確認する。 4 それぞれの句からどのような情景や心情を読み取ったか考えをまとめ、グループで話し合う。(手引き3) <第2時> 1 最も印象に残った句を選び、どのような点にひかれたか、句の主題や表現の特徴を踏まえて、四百字程度でまとめる。 2 グループで意見交換する。</p>	<p>・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。 【主】 粘り強く俳句独自の特徴と表現効果を理解し、学習課題に沿って想像力を働かせながら句の主題を読み取り、印象に残った句について書こうとしている。</p>
----------------------------------	--	------------------------------------	--	--

■ 2 学期

II 部 3 詩歌 (9月)

<p>読む 平気—正岡子規 P236 3時間</p>	<p>【知技】(1)ア, イ (2)ア 【思判表】読む こと(1)ア, カ</p>	<p>・ 韻文とその解釈によって描き出される人物像を的確に捉え、人間と文学の関係について考える。</p>	<p><第1時> 1 現在、正岡子規という人物に対してどのようなイメージを持っているかを発表する。 2 子規がどんな人物として描かれているかに注意して、本文を通読する。(手引き1) 3 子規が闘病生活を『平気』で生きるといふ、その「平気」とはどのような心の在り方であるのかを考える。(手引き3) <第2時> 1 高浜虚子選の『子規句集』と大岡信選の『子規の俳句』</p>	<p>【知技】 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容</p>
--	---	--	---	---

			<p>について、選定基準やそこから浮かび上がる子規像の違いを理解する。(手引き2)</p> <p>2 絶筆三句を通して、「滑稽の精神」を臨終の自分自身にも向けた、子規の最期を読み取る。</p> <p><第3時></p> <p>1 子規を「滑稽家」とする筆者の主張について、自分の考えをまとめる。(手引き4)</p> <p>*Dこの教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。</p> <p>・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p> <p>[主]粘り強く韻文とその解釈によって描き出される人物像の違いを捉え、学習課題に沿って筆者の主張について読み取り、自分の考えをまとめようとしている。</p>
<p>読む</p> <p>【言語活動】</p> <p>アンソロジーを作る</p> <p>P246</p> <p>3時間</p>	<p>[知技] (1)ア, ウ, エ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ウ, キ</p> <p>④ 読むこと(2)オ</p>	<p>・テーマに即した複数の作品を集めてアンソロジーを作り、ものの見方や感じ方を深める。</p>	<p><第1時></p> <p>1 本文を読み、アンソロジーの特徴と作り方を理解する。</p> <p>2 いろいろなアンソロジーの例を見て、イメージ作りをする。</p> <p>3 自分が作りたいアンソロジーのテーマを決める。</p> <p>4 図書館や新聞などを活用して、作品を探す。</p> <p><第2時></p> <p>1 ある程度集まったら、テーマとの関連を吟味し、作品の効果的な並べ方を考える。</p> <p>2 不足がある場合は、更に必要な作品を探して加え、アンソロジーを完成させる。アンソロジーにタイトルをつけてもよい。</p> <p><第3時></p> <p>1 完成したアンソロジーをグループで読み合い、批評をし合う。</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</p> <p>・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。</p> <p>・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。</p> <p>・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p> <p>[主]積極的にテーマに即した複数の作品を集めてアンソロジーを作り、今までの学習を生かして批評し合い、テーマや作品への理解を深めようとしている。</p>
II部 4 随筆2 (9~10月)				
読む	[知技] (1)ア, イ	・人稱を巡る筆者の	<第1時>	[知技]

<p>空っぽの瓶</p> <p>P 248</p> <p>2 時間</p>	<p>(2)ア, イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア, カ</p>	<p>体験や考えを読み取り, 言葉と存在の関わりについて考える。</p>	<p>1 日本語の一人称, 二人称, 三人称をできるだけ挙げる。また, 英語の人称もできるだけ挙げ, 言語によって特徴があることを確認する。</p> <p>2 一人称についての筆者の考えに注目しながら, 本文を通読する。(手引き 1)</p> <p>3 筆者が子供の頃, 日本語の一人称を使わないようにしていた理由を読み取る。(手引き 2)</p> <p><第 2 時></p> <p>1 「ぼく」と「おれ」についての筆者の考えを読み取る。(手引き 3)</p> <p>2 「わたしは筆先であり, ボトルは空っぽなのだ。」という表現において, 筆者は何をたとえているか, また, 筆者がそう感じるのはなぜかを読み取り, まとめる。(手引き 4)</p> <p>3 人称についての筆者の考えをもとに, 言葉と存在の関わりについて, 自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むことを通して, 我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 人間, 社会, 自然などに対するものの見方, 感じ方, 考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 展開, 描写の仕方などを的確に捉えている。 「読むこと」において, 作品の内容や解釈を踏まえ, 人間, 社会, 自然などに対するものの見方, 感じ方, 考え方を深めている。 <p>[主] 粘り強く人称を巡る筆者の体験や考えを読み取り, 学習課題に沿って言葉と存在の関わりについて, 考えようとしている。</p>
<p>読む</p> <p>クレールという女</p> <p>P 255</p> <p>3 時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア, カ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長い時間をかけて深まっていた筆者の読書体験を読み取り, 人間の生き方について考える。 	<p><第 1 時></p> <p>1 過去に読んだ書物で現在も印象に残っているものを挙げ, その理由を考える。</p> <p>2 本文を通読し, 『人間のしるし』のあらすじと登場人物の関係をまとめる。</p> <p>3 本文の構成を整理し, その特徴を理解する。(手引き 1)</p> <p><第 2 時></p> <p>1 『人間のしるし』の登場人物のそれぞれの生き方・考え方と, その変化をまとめる。(手引き 2・3)</p> <p>2 四十年前, 筆者たちは『人間のしるし』を通して, 自</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 文学的な文章を読むことを通して, 我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 展開, 描写の仕方などを的確に捉えている。 「読むこと」において, 作品の内容や解釈を踏まえ,

			分たちの生き方をどのように考えていたかを読み取る。(手引き4) <第3時> 1 四十年たって、筆者が『人間のしるし』から何を感じているかを読み取る。(手引き5) 2 筆者の『人間のしるし』についての考えから、人間の生き方について自分の考えをまとめる。	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 [主] 粘り強く筆者の読書体験を読み取り、学習課題に沿って人間の生き方について、自分の考えをまとめようとしている。
II部 5 戯曲 (10~11月)				
読む 父と暮せば P266 4時間	[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ [思判表] 読む こと(1)ア, カ	・対話を軸にした構成に注意しながら戯曲を読み、原爆の惨禍と人間の幸福について考える。	<第1時> 1 作者について確認する。 2 原爆について当時の広島状況を確認する。 3 戯曲の特徴に注目しながら、全体を通読する。 4 戯曲の特徴についてまとめる。 <第2時> 1 第一場を読み、そこで語られていることから美津江に起こったことと心情を読み取り、まとめる。 2 第二場を読み、第一場からの変化に注目しながら、そこで語られていることから美津江に起こったことと心情を読み取り、まとめる。 3 第三場を読み、第二場からの変化に注目しながら、そこで語られていることから美津江に起こったことと心情を読み取り、まとめる。 <第3時> 1 第四場を読み、第三場からの変化に注目しながら、そこで語られていることから美津江に起こったことと心情を読み取り、まとめる。 2 美津江の経験を時系列で整理する。 3 美津江が木下さんを好きになってはいけな思っていた理由を読み取り、話し合う。(手引き1)	[知技] ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 [主] 進んで対話の中から登場人物の状況や心情を読み取り、学習課題に沿って「平和」や「生きること」について自分の考えをまとめようとしている。

			<p><第4時></p> <p>1 この戯曲を読んで、「平和」や「生きること」について感じたことや考えたことを八百字程度でまとめる。(手引き2)</p>	
<p>読む</p> <p>【言語活動】</p> <p>小説を脚本に書き換える</p> <p>P 290</p> <p>3時間</p>	<p>[知技] (1)ア, ウ, エ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)イ, ウ</p> <p>④ 読むこと(2)ウ</p>	<p>・小説の一場面を脚本に書き換え, 小説と脚本それぞれの特徴について理解を深める。</p>	<p><第1時></p> <p>1 本文を読み, 小説と脚本の違いを整理する。</p> <p>2 小説を脚本に書き換える際の手順を確認する。</p> <p>3 書き換えたい小説の場面を選び, 登場人物や時間, 場所などの要素やテーマを読み取り, メモなどに整理する。</p> <p><第2時></p> <p>1 メモを参考にしながら, 脚本に書き換える。</p> <p>2 ト書なども加えながら, 脚本を完成させる。</p> <p><第3時></p> <p>1 グループで, それぞれの完成した脚本と原作を読み比べ, 違いについて話し合う。</p> <p>2 小説と脚本のそれぞれの特徴をまとめる。</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</p> <p>・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。</p> <p>・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について, 体系的に理解し使っている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において, 語り手の視点や場面の設定の仕方, 表現の特色について評価することを通して, 内容を解釈している。</p> <p>・「読むこと」において, 他の作品と比較するなどして, 文体の特徴や効果について考察している。</p> <p>[主] 進んで小説の一場面を脚本に書き換え, 学習課題に沿って小説と脚本を比較し, 違いについて話し合い, それぞれの特徴をまとめようとしている。</p>
II部 6 小説2 (11~12月)				
<p>読む</p> <p>舞姫</p> <p>P 292</p> <p>【文学への扉】</p> <p>小説の冒頭部</p> <p>P 328</p>	<p>[知技] (1)ア, イ</p> <p>(2)ア, イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア, カ</p> <p>[知技] (1)エ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)イ</p>	<p>・構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を読み取り, 人生の選択について考える。</p>	<p><第1時></p> <p>1 作者や作品が発表された時代について確認する。</p> <p>2 場面に沿って出来事を確認しながら, 本文を通読する。(手引き1)</p> <p>(第一時で読み終わらないときは, 続きを第二時に行う。)</p> <p><第2時></p> <p>1 小説の中心となるのが豊太郎の心情であることを確</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</p> <p>・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について, 体系的に理解し使っている。</p> <p>・文学的な文章を読むことを通して, 我が国の言語文化</p>

10 時間			<p>認したうえで、セイゴンにおける様子（現在）と、ドイツ留学中の具体的場面（過去の回想）を区別し、本文の大まかな内容や構成を把握する。</p> <p>2 過去回想の段落（第二～九段）を、第二～三段（生い立ちから留学まで）・第四～五段（エリスとの出会い）・第六～七段（相沢の登場）・第八～九段（豊太郎の裏切り）の四つに分け、それぞれの主な出来事を大まかにつかむ。</p> <p>3 第一段（初め～P294・7）が、小説全体の序に当たる部分であることを確認する。（手引き6）</p> <p>4 「小説の冒頭部」を読み、文章の冒頭部に込められた意味を考える。（【文学への扉】小説の冒頭部）</p> <p><第3時></p> <p>1 豊太郎の生い立ちから留学までの説明を読み、学問に対する基本姿勢が伝統的な儒学の学問観に即していたこと、また省の方針と一致していたことなどを読み取る。（手引き2-1）</p> <p>2 留学後の豊太郎の学問観がどのように変化し、それが官長との関係にどのように響いていったかを読み取る。（手引き2-1）</p> <p><第4時></p> <p>1 鮮やかな光を受けるウンテル・デン・リンデンとは異なり、薄暗いクロステル巷の情景を捉え、エリスとの出会いの場面を読み取る。</p> <p>2 「臆病なる心」に似合わない行動と、回想時の感想を押しさえる。（手引き3）</p> <p>3 エリスのどのようなところにひかれているかを確認する。（手引き2-2）</p> <p><第5時></p> <p>1 エリスとの交際が始まった後、母の死や母からの手紙、エリスとの関係、相沢の周旋など、豊太郎が免官</p>	<p>の特質について理解を深めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 <p>【主】 粘り強く主人公の考え方や行動について、時代背景を踏まえながら読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめ、話し合おうとしている。</p>
-------	--	--	--	---

			<p>された後の出来事の順を確かめる。</p> <p>2 二人の関係が急速に深まった経緯と、豊太郎が終始、学問と愛情の板挟みにあったことを読み取る。(手引き 4-1)</p> <p><第6時></p> <p>1 「明治二十一年の冬」、相沢から豊太郎に手紙が届き、天方伯に会うためにホテルに出向く経緯と、そのときのエリスの言動を整理する。</p> <p>2 エリスとの交わりを、「意を決して断て」という相沢の忠言と、それに対する豊太郎の言動、心情を読み取る。(手引き 2-3)</p> <p><第7時></p> <p>1 天方伯に従ってロシアのペエテルブルクに行き、その華やかな雰囲気の中で活躍する豊太郎の様子をまとめる。</p> <p>2 エリスからの手紙の内容をまとめ、それを読んだ豊太郎が「初めて我が地位を明視し得たり。」と言った「我が地位」とは何かを理解する。</p> <p><第8時></p> <p>1 豊太郎の揺れ動く心情と、豊太郎が帰ってきたことに対するエリスの喜びを整理し、「この一刹那、低徊踟躕の思ひは去りて」という豊太郎の思いについて考える。</p> <p>2 天方伯の帰国の誘いに対し、豊太郎はどのように考えて「承りはべり。」と返事をしたのかを整理する。</p> <p>3 ホテルを出た豊太郎は、どのような心情になったのか、またその足取りはどうであったかを確認する。</p> <p><第9時></p> <p>1 豊太郎が意識を失っていた間に、相沢はエリスにどのようなことを伝えたのか、またエリスはそれを聞いて</p>	
--	--	--	--	--

			<p>どうなったのかを読み取り，目覚めた豊太郎はどのような状況を見たのかを整理する。(手引き 4-2)</p> <p>2 豊太郎にとって相沢が「良友」であり，「憎むところ」を抱く相手である理由を整理する。(手引き 5-1・5-2)</p> <p><第 10 時></p> <p>1 豊太郎が，欧米の先進国から学ぶため，東洋の発展途上国であった日本より派遣された国費留学の官員であるという点から，作品全体を把握する。</p> <p>2 太田豊太郎の考え方や行動について，どのように考えるか，時代背景なども踏まえて話し合う。(言語活動)</p> <p>* Dこの教材には，関連するデジタルコンテンツが用意されているので，適宜利用するとよい。</p>	
--	--	--	--	--

■ 3 学期

Ⅱ部 7 評論 (1～2月)

<p>読む 演技する「私」</p> <p>P 330 3 時間</p>	<p>[知技] (1)ア，イ (2)ア [思判表] 読む こと(1)ア，カ</p>	<p>・筆者の主張の展開を押さえ，小説における作者と小説内の「私」との関係について考えを深める。</p>	<p><第 1 時></p> <p>1 取り上げられている作品や作者の例から筆者が導いていることに注意しながら，本文を通読する。(手引き 1)</p> <p>2 取り上げられている作品と作者について，確認する。</p> <p>3 筆者は，小説表現の面白さをより深く味わうために，どうすることを提案しているか読み取る。(手引き 2)</p> <p>4 筆者が太宰治「恥」から読み取ったことを，作者と作品の関係から整理する。(手引き 3)</p> <p><第 2 時></p> <p>1 「小説」と「事実」の関係について，筆者はどのように捉え，小説とはどのようなものだと述べているか読</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には，想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して，我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において，文章の種類を踏まえて，内容や構成，展開，描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において，作品の内容や解釈を踏まえ，人間，社会，自然などに対するものの見方，感じ方，
---	---	--	--	---

			<p>み取る。(手引き4)</p> <p>2 筆者は、作中の「私」の果たす役割から、小説の特質をどのようなものだと主張しているか読み取る。(手引き5)</p> <p><第3時></p> <p>1 本文の内容を踏まえて、これまでに読んだ「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説について、改めて『私』と「作者その人」の関係を考え、文章にまとめる。(言語活動)</p> <p>2 グループで意見交換をする。</p>	<p>考え方を深めている。</p> <p>[主] 粘り強く筆者の主張を読み取り、学習課題に沿って小説における作者と小説内の「私」との関係について理解し、考えをまとめようとしている。</p>
<p>読む</p> <p>映画の可能性のために</p> <p>P335</p> <p>3時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ</p> <p>(2)ア, イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア, カ</p>	<p>・映画と小説を題材にした評論を読み、作品を成立させる視点のありようについて理解を深める。</p>	<p><第1時></p> <p>1 映画「2/デュオ」の撮影がどのように進んだかを思い浮かべながら、本文を通読する。(手引き1)</p> <p>2 「ダイアログ」と「モノログ」の違いを押さえ、筆者が「違和感を覚えた」理由を読み取る。(手引き2)</p> <p>3 筆者が述べている「バルザック」と「カミュ」の作家の視点の違いを読み取り、整理する。(手引き3)</p> <p><第2時></p> <p>1 筆者が二つの「作家の視点」を「映画のカメラに置き換え」て説明しているところに着目し、読み取る。(手引き4)</p> <p>2 「なぜ私はこんなことをしでかしてしまったのだろうか」という筆者の疑問に着目し、映画「2/デュオ」の制作が進められた過程を理解し、「カミュの視点」での撮影に至った経緯を読み取る。(手引き5-1・5-2)</p> <p><第3時></p> <p>1 映画や小説を一作品選び、バルザック的視点かカミュ的視点か、そのどちらでもないのか、考えをまとめ、</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 <p>[主] 粘り強く「バルザック」と「カミュ」の視点の違いを理解し、学習課題に沿って選んだ作品がどちらの視点であるか考えをまとめ、話し合おうとしている。</p>

			グループで話し合う。(言語活動)	
読む 【言語活動】映画と原作を比較する P345 3時間	[知技] (1)ア, ウ, エ [思判表] 読むこと(1)ウ, オ (活) 読むこと(2)エ	・映画と原作を比較し, それぞれの作品の特質を捉え, 作品への理解を深める。	グループで話し合う。(言語活動) <第1時> 1 本文を読み, 「脚色」の特色と, 映画と原作を比較する際の手順を理解する。 2 グループで, 原作が小説で映画化されている作品を選ぶ。(動画などで手軽に鑑賞できるものを選ぶとよい。) 3 図書館などで原作を探し, 小説を読む。 <第2時> 1 映画を鑑賞する。その際, 原作とのストーリーの違いや登場人物のセリフなどの表現の違いに注意して, メモをとりながら鑑賞する。(時間の都合で家庭学習にしてもよい。) 2 比較しながら, なぜ変化が行われたのか, 考えをまとめ, グループで話し合う。 <第3時> 1 比較によって気づいたことや考えたことを踏まえ, 映画と原作を批評する文章を書く。 2 グループで回し読みして, 気づいたことなどを話し合う。	[知技] ・言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について, 体系的に理解し使っている。 [思判表] ・「読むこと」において, 他の作品と比較するなどして, 文体の特徴や効果について考察している。 ・「読むこと」において, 作品に表れているものの見方, 感じ方, 考え方を捉えると同時に, 作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ, 作品の解釈を深めている。 [主] 進んで映画と原作を比較し, 学習課題に沿って変化の効果を理解し, それぞれの作品の特質や作品への理解を深めながら, 批評する文章を書こうとしている。
II部 8 小説3 (2~3月)				
読む 葉桜と魔笛 P348 3時間	[知技] (1)ア, イ (2)ア [思判表] 読むこと(1)ア, エ	・物語の展開を把握しつつ, そこに浮かび上がる人間の心の奥深さを味わう。	<第1時> 1 太宰治の作品で既読のものがあれば発表するとともに, 作者紹介欄 (P359) を読み, 作者とこの作品について確認する。 2 全文を通読し, 三つの段に分けられる構成の大枠を把握したうえで, 小説における老夫人が語る〈現在〉部分と語られる〈回想〉部分を確認する。 3 登場人物についてまとめる。	[知技] ・言葉には, 想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して, 我が国の言語文化の特質について理解を深めている。

			<p>4 語り手である老夫人に関わる主要な出来事を、「私」の年齢を軸として年代順に整理する。(手引き1)</p> <p><第2時></p> <p>1 「時」, 「場所」, 「人」に注意しながら, 第一段の語句その他の検討をする。</p> <p>2 第一段により作品全体に語りの場が設定されていることを認識するとともに, 第二段における〈回想〉部分の前提となる「時」, 「場所」, 「人」の状況がどのようなものであるかをまとめる。</p> <p>3 第二段を読んで七つの節に分けたうえで, 回想される出来事の時間的経過に注意しながら内容を整理する。</p> <p>4 第二段第一節の語句その他の検討を行い, 〈回想〉される出来事があった頃の主人公「私」(姉)の心情を把握する。(手引き2)</p> <p>5 第二段第二・三・四節の語句その他の検討を行い, 作中のM・Tがどのような設定による人物であり, その人物像はどのようなものであるかを考える。</p> <p>6 「私」がM・Tからの手紙を読み, 妹に手紙を書くまでの心の動きを考える。(手引き3)</p> <p>7 第二段第五・六節の語句その他の検討を行い, 妹がなぜM・Tの名で自分に宛てて手紙を書いたのかについて考える。(手引き4)</p> <p>8 姉妹に共通する思いは何か, また, 異なる思いは何かについて, 二人のこれまでの言動から考える。</p> <p>9 第二段第七節の語句その他の検討を行い, 「魔笛」を姉妹がどのように受け止めたのか考える。</p> <p>10 第三段の語句その他の検討を行い, 「魔笛」の真相について考える。</p> <p><第3時></p> <p>1 登場人物である「私」, 妹, 父の三者が, 「魔笛」を巡ってそれぞれどのような思いを抱いたかについて</p>	<p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 展開, 描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において, 文章の構成や展開, 表現の仕方を踏まえ, 解釈の多様性について考察している。 <p>[主] 粘り強く物語の展開を把握し, 登場人物の心情を読み取り, 学習課題に沿ってこの作品における時間の流れの役割について話し合おうとしている。</p>
--	--	--	---	---

			<p>て考える。</p> <p>2 この作品の文体の特徴と効果について検討し、まとめる。</p> <p>3 「葉桜と魔笛」という題名について検討し、感じたことを話し合う。(手引き5)</p> <p>4 この小説で、時間の流れはどのような役割を果たしているか話し合う。(言語活動)</p> <p>* D この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	
<p>読む</p> <p>蠅</p> <p>P 362</p> <p>【文学への扉】</p> <p>映画と小説</p> <p>P 374</p> <p>3 時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ (2)ア, イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア, エ</p> <p>[知技] (1)ア</p> <p>[思判表] 読むこと(1)オ</p>	<p>・視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、作品の主題について考える。</p>	<p><第1時></p> <p>1 表現の特徴に気をつけながら、本文を通読する。(手引き1)</p> <p>2 「馭者」「農婦」「若者と娘」「母親と男の子」「田舎紳士」について、それぞれの境遇や気持ちをまとめる。(手引き3)</p> <p>3 「一」における「蠅」の動きをまとめる。(手引き2)</p> <p><第2時></p> <p>1 「三」における、「農婦」に話しかけられた「馭者」の心情を理解する。(手引き4-1)</p> <p>2 「四」での「若者」の心情を理解する。(手引き4-2)</p> <p>3 「七」における、集合した人々の様子を理解する。(手引き4-3)</p> <p>4 「八」の状況を読み取り、表現されていることを考察する。(手引き4-4)</p> <p>5 「饅頭」がどのような役割を果たしているか考える。(手引き5)</p> <p>6 馬車が転落し、「蠅」が飛び去る結末から読み取れることを考える。(手引き6)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。

			<p><第3時></p> <p>1 「映画と小説」を読み、これまで影響し合ってきた映画と小説の関係や、その手法や物語の設定の類似などを理解する。【文学への扉】映画と小説</p> <p>2 この小説について、複数の観点から考え、話し合う。(言語活動)</p>	<p>[主] 粘り強く視点の移動に注意しながら描かれた場面や状況を読み取り、学習課題に沿って作品の主題について複数の観点から考え、話し合おうとしている。</p>
<p>読む</p> <p>【言語活動】 さまざまな資料を調べて発表する</p> <p>P373 3時間</p>	<p>[知技] (1)ア, ウ, エ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)オ, キ</p> <p>④ 読むこと(2)カ</p>	<p>・ 作品が成立した背景やほかの作品との関係を調べて発表し、作品の解釈を深める。</p>	<p><第1・2時></p> <p>1 本文を読んで、文学作品に関する資料を調べる意義と手順を理解する。</p> <p>2 教科書に掲載されている作品から一つ選び、作品に描かれている時代について、年表や百科事典などで調べる。</p> <p>3 作者の伝記や文学辞典から、作者がどのような人物であったか、作品が成立した時代がどのような時代であったかを調べる。</p> <p>4 同時代に書かれたほかの作品や、同じ作者のほかの作品を調べる。</p> <p>5 作品がどう読まれてきたかについて、書籍の後書きや解説、作品に関する専門書などから調べる。</p> <p>6 調べたことから分かったことをまとめる。</p> <p>7 分かったことを踏まえて、作品を読み直す。</p> <p><第3時></p> <p>1 作品を読み直して気づいたことをまとめ、発表する。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・ 文学的な文章における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 ・ 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 <p>[主] 進んで作品が成立した背景やほかの作品との関係を調べ、学習課題に沿って作品の解釈を深め、考えをまとめて発表しようとしている。</p>